

球磨工 人権だより

令和6年12月 人権教育推進委員会

人権教育の係の井本です。今年度は人権教育のLHRの取り組みとして、1, 2年生には「部落差別をはじめあらゆる差別をなくす 人権子ども集会」に参加してもらおうと考えています。この「人権子ども集会」は長い歴史があり、長年、子ども達が主体となって、差別やいじめをなくすためにどうすればよいかを考えて毎年開催されています。コロナ禍の影響でここ数年はオンデマンド配信で開催しており、今年もオンデマンド配信での開催です。今年も人権子ども集会の実行委員となった子どもたちが、何度も議論を繰り返し「人権について」、「みんなが居心地のよい、学校やクラスについて」みんなで真剣に考えてほしいと願いを込めながら動画を作ってくれました。その思いを感じながら参加（動画の視聴）してもらいたいと思います。

参加する前に、実行委員が作成した「部落差別をはじめあらゆる差別をなくす 熊本県人権子ども集会メッセージ」を読んでください。



※教室掲示、と朝読書の時間に配布をします。



21世紀は「人権の世紀」と呼ばれます。「人権を大切にすること、お互いを認め合い、すべての人が幸福に生きていけることが大事」ということは、今や世界中の人たちの共通認識だと思えます。ただ、人間の歴史を振り返ると、この共通

認識は昔からの常識ではなく、多くの人の努力によって作られたもので、これからもみんなで守ることが大切です。

「人権子ども集会」でこれまで大切にされてきたことは、まず、自分たちの身近なところから人権を大切にしていくことです。そのために「身近な人を思いやる」「相手のことをきちんと知る」「差別やいじめをしないなかと作る」などのことを大切にきてきています。

今年のテーマ「輪 ～伝える、認める、つながる～」についてじっくり考えてみてください。

○10月11日（金）に人権教育講演会を実施しました。講師として来ていただいた秦さんが子どもの頃の体験や、秦さん自身が自分の中にある差別の心に気づいて、それをなくしていくために努力したことを話していただきました。また、差別的な落書きや差別発言などが今でもあること、秦さんが取り組んできた「なかまづくり」の取組のことや、差別をしてはいけないという、法律などが整いつつあることなども話していただきました。差別やいじめなどの人権の問題について学んだことは、日々の生活に生かしてこそ意味があります。私たちの身近な問題として考えていきたいですね。（文責：井本）

講演会の感想です。

私は、今回の講演会でのお話を聞き部落差別の人権もんだいについて考えることができました。お話で部落差別に真正面からたたかわれている方や、部落差別によって未だにくるしまれている方々の存在を知りこれから自分にできることは、少ないかもしれないけど、まずは、正しい知識をとり入れることや、自分から差別になってしまうようなことを発信しないことをこころがけていきたいです。

昔の人権学習は差別されている人や地域があるから差別はしないようにしようと教えられたと聞いて、確かに差別は良くないと言っているけど、その理由が可哀想だからと言うのは少し違うなと思いました。差別やいじめには理由はない、差別する人がいなくなれば差別はなくなるというのは、本当にその通りだと思いました。こういう差別に対する知識と抵抗する意識を持って生活していこうと思いました。

今回の講演会で部落差別というのは今まで昔のことや、実感があまり湧かない話題だと感じていましたが講演会を通して、意外と身近で起こっていることだということに気づきました。また、自分一人では部落差別を完全になくすということは難しいと思ったので身近で小さなことからコツコツやっていきたいと感じました。